Excelマクロプログラムの便利な使い方(2)

担当:下倉 雅行

実習概要

Excelマクロプログラムの便利な使い方(1)では、Excelのマクロについて紹介したのち、自動印刷できるプログラムの紹介をする。

Excelマクロプログラムの便利な使い方(2)では、QRコードを自動生成するプログラムを紹介する。

引用•参考文献

高橋参吉編著、高橋朋子、下倉雅行、小野 淳、田中規久雄:教職・情報機器の操作~ICTを活用した教材開発・授業設計~、(2章2節、付録)、コロナ社(2021.2).

デンソーウェーブ株式会社: QRコードドットコム、https://qrcode.com/

実習内容

- ■QRコードとは
- ■QRコード自動生成マクロの作成
 - ▶プログラムの概要
 - ➤Excelシートの作成
 - ▶プログラムの入力
 - ▶プログラムの実行方法

QRコードとは

- ■株式会社デンソーウェーブが開発した2次元バーコードの名称
 - → 従来のバーコードから大幅な機能向上
 - ▶格納できる情報量が大幅に増え、汚損に強い
- ■QRコードという名称は株式会社デンソーウェーブの登録商標(商標登録番号 第4075066号)
- QRコードの規格はJIS X 0510:2018で制定されている
- QRコードには、数字、英字、感じ、カナ、ひらがな、記号などをまとめて格納
 - ▶数字のみであれば、最大で7089文字格納可能

QRコード自動生成プログラム概要

- ■Excelのセルに入力されている参考URLを、隣の列にQRコードにして表示する
 - ▶2つのサブルーチン(プログラム)が存在
 - ➤ Sub put_barcode()~~ End Subは、QRコードを自動生成する
 - ➤ Sub delete_barcode()~~End Subは、シート上のQRコードをすべて削除する
- ■参考文献にある、Excelシートで作成できるようにしている
 - ▶ 自分で手直しすると、数の調整ができる
- ■QRコードを表示するため、バーコードコントロール(BarCodeCtl)を利用
 - ➤ Microsoft Access BarCode Control 14.0を利用
 - ▶ Accessがインストールされていない環境では、Microsoft 365 Access Runtimeをインストールすることで利用できるようになる
 - Office 2019の場合でもMicrosoft 365 Access Runtimeを利用

Excelシート例

E列3行から8行に URLを記載

マクロ実行後、F列の3行 ~8行にQRコードを表示

	Α	В	С	D	E	F
1		2020年度から使用される教科書の中のプログラミング				
2	教科	学年	出版社	単元・題材名等	関連Webサイト	QR⊐− F
3	算数	5年下	東京書籍	プログラミングを体験しよう!・正 多角形をかく手順を考えよう	https://ten.tokyo- shoseki.co.jp/text/shou/sansu/introdu ction/page13.html	
4	算数	5年	大日本図書	プログラミングにちょうせん!・正 多角形をかこう	https://www.dainippon- tosho.co.jp/introduction2020/sansu/ex _programming.html	
5	算数	5年下	学校図書	プログラミングのミ・正多角形をか かせてみましょう	http://qr.gakuto.co.jp/01504	
6	算数	5年	教育出版	正多角形と円・プログラミングに ちょう戦しよう	https://www.kyoiku- shuppan.co.jp/textbook/shou/sansu/p rograming.html	
7	算数	5年	新興出版社 啓林館	わくわく算数ひろば・図形をかくプ ログラムをつくろう。	https://www.shinko- keirin.co.jp/keirinkan/sho/text_2020/sa nsu/programming.html#construction	
8	算数	5年下	日本文教出版	正多角形と円・プログラミングを体 験しよう	https://www.nichibun- g.co.jp/textbooks/sansu/download/r2/ r2_sansu_naiyo_torisetsu.pdf	

(出典)

高橋参吉:京都府小学校教員 研修資料「小学校教科書の中 のプログラミング」 http://www.umanabi.org/microbit/

QRコード自動生成プログラム(全体)

標準モジュールの1行目に記載することで、宣言(変数名と変数の型)されていない変数はエラーとする。 変数名の間違いや代入の間違いなどを防ぐ。

Option Explicit

```
Sub delete_barcode()
    Dim ctl As OLEObject
    For Each ctl In ActiveSheet.OLEObjects
        If ctl.progID = "BARCODE.BarCodeCtrl.1" Then ctl.Delete
        Next ctl
End Sub
```

QRコード削除サブルーチン

QRコード自動生成サブルーチン

3行目から8行目を処理対象としている QRコードを設置するセルを指定 Cells(i,6)の部分で、i行6列を指定 i=3の3が開始行、To 8の8が最終行 Sub put_barcode() BarCodeCtrlの置き場所および各種設定 Set bcd = ActiveSheet. OLEObjects. Add(classtype:="BARCODE. BarCodeCtrl.1", Link:=False, 繰 DisplayasIcon:=False. Left:=ActiveCell.Left + 1. Top:=ActiveCell.Top + 1. Width:=10. Height:=10) bcd. Object. Style = BarCodeCtrlのStyleを11にすることで、 QRコードとなる bcd. Width = ActiveCell. Width - 2 bcd. Height = ActiveCell. Height - 2 Next i End Sub

QRコードの大きさをi行6列のセルの大きさの縦横それぞれ2ピクセル分減らして設定

URLが記載されているセルをQRコードに含まれる文字列としている

Cells(i,5)で、i行5列から取得するようにしている

QRコード削除サブルーチン

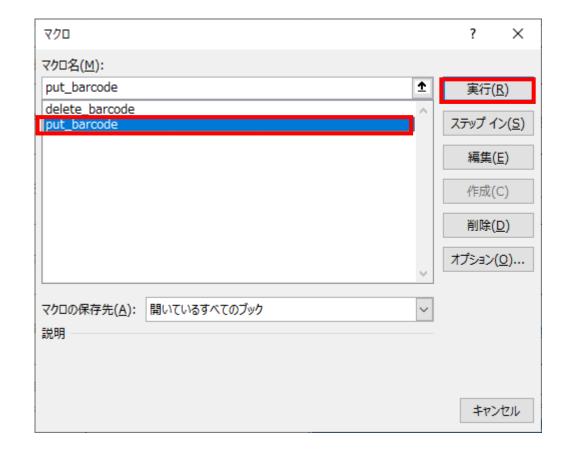
- ■シート上に存在しているQRコードをすべて削除する
 - ▶(注意)手動で作成したものも消してしまう
 - ▶シート上にあるコントロールと呼ばれるボタンやQRコードなどをすべて調べて、QRコードであるBarCodeCtrlの場合はそれを削除する

```
Sub delete_barcode()
    Dim ctl As OLEObject
    For Each ctl In ActiveSheet. OLEObjects
        If ctl.progID = "BARCODE. BarCodeCtrl.1" Then ctl.Delete
        Next ctl
End Sub
```

プログラム実行方法

挿入 ページ レイアウト データ ファイル 描画 数式 校閲 ホーム こ プロパティ マクロの記録 □コードの表示 🛱 相対参照で記録 Visual Basi マクロのセキュリティ 』 ダイアログの実行 アドイン コントロール

- ■QRコードを生成したいシートを表示
- 開発タブ→コードグループにある「マクロ」をクリック
- ■マクロダイアログが表示されるので、put_barcode をクリックし、実行をクリック
- ■QRコードを削除したい場合は、マクロダイアログのdelete_barcodeをクリックし、実行をクリック



プログラム実行例

